

二木 立 著

保健・医療・福祉複合体
全国調査と将来予測

江見 康一（一橋大学名誉教授）

本書の題名は、医療関係に携わっている人にとっても聞きなれない感じをもつ向きが多いかもしれない。「複合」とは「二種以上のものが合わさって一つとなること」であり、したがって、医療施設がなんらかの保健・福祉施設の両方を開設して、「保健・医療・福祉サービスを一体的に提供しているグループ」のことを「複合体」と名づけている。

著者は、以前から私的大病院を中心とする系列的活動の拡がりをも「病院チェーン化」として捉え、その実態を明らかにしたが、本書はその実績を踏まえ、現に医療施設が向かいつつある保健・福祉施設との複合化による関連サービスの立体化について、それを理論と実証の両面から明らかにしようとする野心的な著作といえる。

それが野心的であるゆえには、本書の「まえがき」において明らかであり、そのような「複合体」への指向は、21世紀の保健・医療システムのあるべき姿を予測するうえでの核心部分であり、著者はこの課題に初めて挑戦したからである。

しかも注目すべきは、2000年度に創設される介護保険が、これら「複合体」化の流れを加速するという証言である。

著者はこれらのことを実証するために、全体を第Ⅰ部＝「複合体」の全体像の提示、第Ⅱ部＝「複合体」を6種類に分けた全国調査による分析、第Ⅲ部＝全私立医大病院と500床以上の全私的病院の横断分析と時系列分析による病院チェーン化と「複合体」化の分析、という3部を用意し、周到に自説を裏づける

る努力を行っている。

二木教授の著作について、評者がつねづね敬服している点は、著者が自からに課した手固い分析手法であり、それは第Ⅰ部の見出しの並べ方によって明らかであろう。すなわち、①用語の定義と調査対象の限定、②調査方法、③調査結果、④考察。

4段階の手続きをきちっと踏んでいることである。「はしがき」で分析目的が示され、また④の考察の中からは「将来予測」へのヒントや「政策提言」も引き出されるであろう。

これらの分析を進めるうえで、著者は膨大な文献、統計調査資料を駆使しているが、その場合、既存の縦割の官庁統計を用いるだけでは、全体像に接近できないとして、行政上の業務統計に依存する分析の弱さが、具体的に指摘される。

本書は全体を通じて、著者の気迫が随所に漲っており、分析の展開が稠密かつコンパクトであるので、評者にとっても新発見が多く、それらについてとくに異論はない。強いていえば、全体がフィジカルな面に焦点を当てたものなので、資金面や保険財政との関連を顕在的に持ち込んだ時に、著者の分析にどのような説明が新たに加えられるかが知りたいところである。いずれにしても本書は介護保険の導入や医療保険の改革を検討している方々にとっても、その審議が統計的基礎によって支持されねばならないことを知るうえで警世の書といえよう。

（A5 頁336 3,600円＋税 1998 医学書院刊）

お知らせ

第15回電気刺激療法研究会

主 題：遷延性意識障害に対する刺激療法

（この主題以外の演題も受け付けます。）

日 時：平成11年11月27日（土）午後1時～5時

場 所：駿河台日本大学病院3階講堂

演題申し込み：400字以内の抄録を添えて下記宛にお申し込み下さい。

〒271-0065 千葉県松戸市南花島向町315-1

株式会社日本メディックス内

第15回電気刺激療法研究会事務局

Tel 047-368-8714 Fax 047-368-1535

email market.kondo@nifty.ne.jp

演題締切：平成11年8月31日